

令和6年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふ り が な	にきゅうかせんおもとがわさいがいふっきゅうじょせいじぎょう
1. 事業(施策)の名称	二級河川小本川災害復旧助成事業
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	平成 29 年3月 15 日 ～ 令和7年3月 31 日
3. 事業費(工事費)	約 11,600 百万円
4. キーワード	県内最大規模、流域治水、整備効果発現、大規模流木捕捉施設、インフラツーリズムデジタルコンテンツ
5. 事業概要	平成 28 年台風第10 号で大規模浸水被害が発生した岩泉町小本川において、再度災害防止と早期の復旧・復興が求められる中、総延長約 50km におよぶ県内最大規模の河川改修を計画。河道拡幅など掘削土量約 350 万^m、護岸工約 11 万^mにもおよぶ大規模事業に対して、県、地元建設業者等が一丸となり、約8年の歳月をかけて本事業約 23km を完了させた。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(d)令和3年2月に全国に先駆けて策定した「小本川流域治水プロジェクト」に掲げる河川改修事業の実施。 (b)流木による被害軽減を図るため、「大規模流木捕捉施設」を新設。全国的にも設置事例が少なく、明確な設計基準が定められていないため、水理模型実験を実施し、より効果的な施設形状・配置を検証。	() () () ()
アピールする 2)「秀でた成果」	(a)河川改修により治水安全度が大幅に向上。今年8月の台風第5号では、整備効果が発現され、防災・減災に大きく寄与。 (a)水理模型実験の結果に基づき、より捕捉率の高い形状・配置を設計へ反映。	() () () ()

7. 特にアピールしたい点
・全国に先駆けて「小本川流域治水協議会」を設立し「小本川流域治水プロジェクト」を策定。同プロジェクトに掲げる総延長約 50km におよぶ県内最大規模の河川改修であること。 ・全国的にも例の少ない大規模流木捕捉施設を新設。水理模型実験を実施し、より捕捉率の高い効果的な形状・配置を設計に反映できたこと。また、県、岩手県立大学、名城大学(震災復興支援)が協働で「流木捕捉施設を活用したインフラツーリズムデジタルコンテンツ」を作成したこと。 ・今年8月の台風第5号では、甚大な被害をもたらした平成 28 年台風第 10 号と同規模の降雨を記録したが、整備効果が発現され浸水被害はゼロであったこと。

8. 事業を代表する写真及びキャプション

【整備効果の発現】

・事業完了までの約8年間にわたり、県と地元建設業者等が一日も早い復旧・復興に向けて一丸となり取り組んだ結果、流下能力は従前の $200 \sim 700 \text{ m}^3/\text{s}$ (1/5 年確率相当以下) から $680 \sim 1,900 \text{ m}^3/\text{s}$ (1/30 年確率) へ大幅に向上。今年8月の台風第5号では整備効果が発現され、浸水被害を解消できた。

◆中居岩泉町長のコメント

「今年8月の台風第5号では家屋等の浸水被害もなく、河川改修の成果を実感している。改修前の河川であつたら被害が大きくなっていたかもしれない。全ての事業が完了したわけではないが、河川改修の効果は非常に大きかった。町民も事業効果を肌で感じていると思う」

◆地元住民の声

「8年前の台風では自宅裏の川が氾濫したが、今回は溢れることはなかった。工事の大切さを実感した。工事関係者に感謝したい」

【施工状況写真】



旧橋解体作業の様子



河道拡幅作業の様子

【完成写真】



岩泉町尼額地区及び流木捕捉施設 完成状況

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

【位置図・被災状況写真(平成28年台風第10号)】

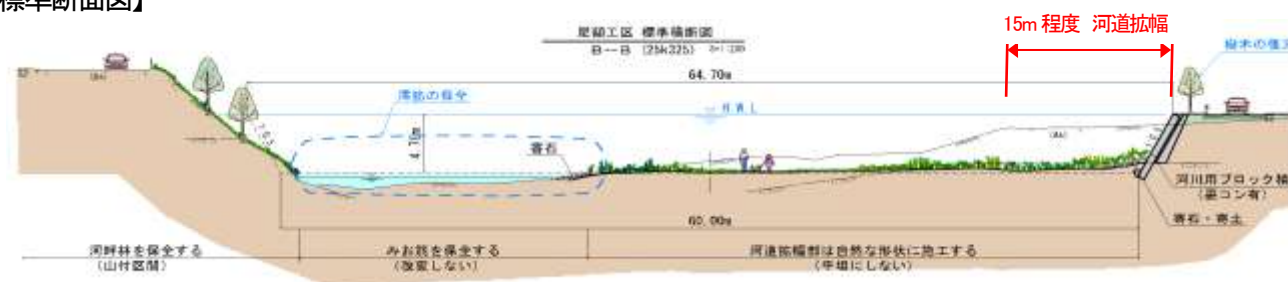


流木被害の状況

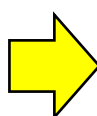


家屋被害の状況

【標準断面図】



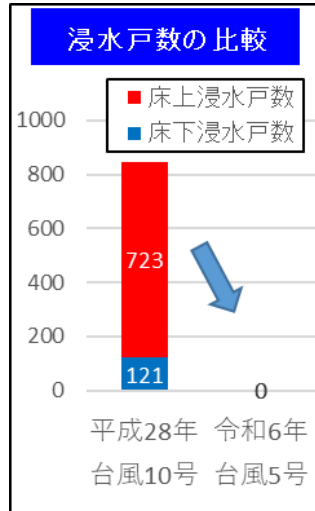
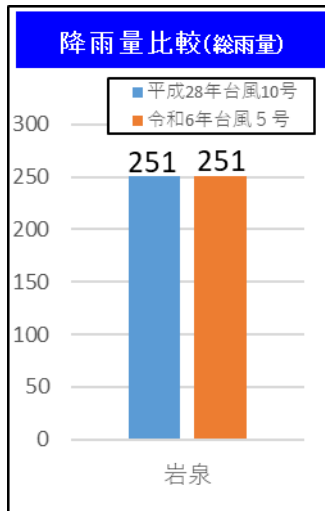
【写真(着工前→完成後)】



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

◆整備効果の発現

- ・小本川では、平成28年8月の台風第10号で広く越水・溢水が発生し、床上723戸、床下121戸の家屋等が浸水。
- ・この出水を踏まえ、災害復旧助成事業等を導入し、緊急的かつ集中的に河道拡幅等の治水対策を推進。
- ・今年8月の台風第5号では、甚大な被害をもたらした平成28年台風第10号と同規模の降雨を記録したが、整備効果が発現し浸水被害はゼロであった。



台風第5号 出水状況

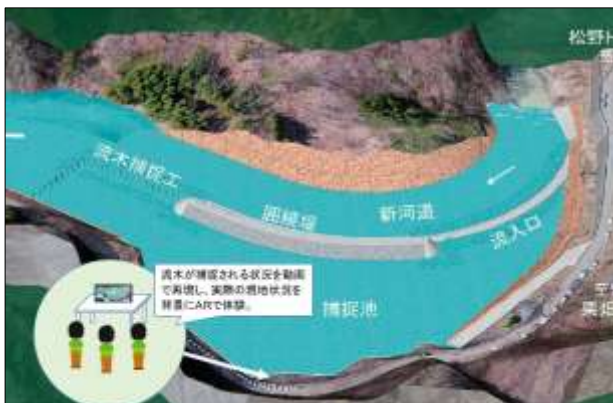
◆流木捕捉施設 (計画捕捉流木量 1,500 m³)

- ・寒地土木研究所の御協力の下、水理模型実験を実施。流入口の位置・幅・高さ、スリット構造など形状を変えながら、より捕捉率の高い効果的な形状・配置を検証した。
- ・また、インフラを観光資源とする観光振興の推進を図るため、県、岩手県立大学、名城大学の協働による「流木捕捉施設を活用したインフラツーリズムデジタルコンテンツ」を作成した(次年度から本格運用)。



水理模型実験の様子(寒地土木研究所内)

流木捕捉施設(完成後)



デジタルコンテンツのイメージ



名城大学の学生による現地視察の様子(令和6年10月)